

安全データシート

No-tape

1. 化学品及び会社情報

製品名 ディノパック (主剤)
整理番号 PUW05901-32
会社名 ノーテープ工業株式会社
住所 大阪府八尾市跡部本町 3 - 1 - 1 9
担当部門 技術部
電話番号 (072) 992-0131
FAX番号 (072) 992-1513
緊急連絡先 技術部
電話番号 (072) 992-0131
推奨用途及び使用上の制限：接着剤用途

作成 2005年 6月 27日
改訂 2020年 12月 21日

2. 危険有害性の要約

GHS分類結果：

物理化学的危険性

引火性液体

：区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口）

：分類できない

（経皮）

：分類できない

（吸入－気体）

：分類対象外

（吸入－蒸気）

：分類できない

（吸入－粉じん及びミスト）

：分類できない

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

：分類できない

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

：分類できない

呼吸器感作性

：分類できない

皮膚感作性

：分類できない

生殖細胞変異原性

：分類できない

発がん性

：分類できない

生殖毒性

：分類できない

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

：分類できない

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

：分類できない

吸引性呼吸器有害性

：分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性（急性）

：分類できない

水生環境有害性（長期間）

：分類できない

オゾン層への有害性

：分類できない

GHS表示：

ピクトグラム： なし

注意喚起語： なし

危険有害性情報： なし

安全データシート

No-tape

注意書き：

- 安全対策・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない事。
- ・熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざける事。ー禁煙。
 - ・局所排気装置を使用し、粉じん／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避ける事。
 - ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用する事。
 - ・使用設備の密閉化／回収装置の設置が望ましい。
 - ・容器は丁寧に扱い、内容物をこぼさない事。
 - ・取扱い後は、手をよく洗う事。口をすすぐ事。
 - ・環境への放出を避ける事。

応急措置・火災時には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いる事。

- ・物的被害を防止するためにも流出したものを吸収する事。漏出物を回収する事。
- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗う事。皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当を受ける事。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う事。直ちに医師の診断／手当を受ける事。
- ・吸入した場合：気分が悪い時は、医師の診断／手当を受ける事。飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡する事。

保管

- ・容器を密閉しておく事。日光から遮断する事。
- ・換気の良い場所で保管する事。（5～35℃）
- ・湿気を遮断する事。水と接触させない事。
- ・子供の手の届かないところに置く事。

廃棄

- ・容器は、中身をすべて使い切ってから廃棄する事。
- ・内容物/容器を、許可を受けた専門業者に委託し廃棄する事。

*接着用途以外には絶対に使用しない事。

国／地域情報 消防法 非危険物（指定可燃物）

3. 組成及び成分情報

物質の特定

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : 合成樹脂系接着剤

成分及び含有量 :

成分名	CAS No.	含有量%	P R T R法		労安法
			含有量%	分類	
脂肪酸エステル類	—	5 0	—	—	—
無機充填剤	—	5 0	—	—	—

4. 応急措置

- 目に入った場合 : 流水にて最低15分間洗眼した後、異常のある場合は直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : すぐに拭き取り、石鹼水及び水で洗い流す。炎症等が出た場合、速やかに医師の診断を受ける。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所へ移動して寝かせる。頭痛等の異常がある場合、

安全データシート

No-tape

速やかに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 : 多量の水を飲ませ吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。
他人が無理に吐かせてはいけない。
予想される急性症状及び遅発性症状 : 喘息様発作、めまい、頭痛、吐き気、肝障害
最も重要な兆候及び症状 : 知見なし
応急措置をする者の保護 : 知見なし
医師に対する特別事項 : 知見なし

5. 火災時の措置

消火方法 : 付近の着火源を断ち、保護具を着用して風上から消火する。
消火剤 : 小火災－粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂
大火災－散水、噴霧水、一般の泡消火剤
使ってはならない消火剤 : 棒状注水
特有の危険性 : 火災によって刺激性、又は毒性、のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法 : 付近の着火源を断つ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 :
作業者は適切な保護具（8. 暴露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所に入る前に換気する。
環境に対する注意事項 :
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を避ける。
河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
回収、中和 :
少量の場合は、紙や布で拭き取り「廃棄上の注意」に従って廃棄する。
大量の場合は開放した容器に出来る限り集め、残留物を土砂、ケイソウ土、おが屑など不活性吸収剤に吸着させる。
封じ込め及び浄化方法と機材 :
危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取り扱う時、用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止策 :
全ての着火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

安全データシート

No-tape

蒸気発生の多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。
関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

防爆の電気、換気、照明器具及び防爆用工具のみを使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。－禁煙。

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

静電気対策のために、装置、機器などの接地を確実に行う。

局所排気・全体換気：

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

液の漏洩や蒸気の発散を極力防止する。

安全取扱い注意事項：

眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。

眠気又はめまい、呼吸器の刺激、器官の損傷のおそれがあるので、本製品に接触、吸入、飲み込みをしてはならない。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
取扱い後はよく手を洗うこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

接触回避：

「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策：

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。

容器を密閉して、換気の良いところで貯蔵すること。

保管条件：

冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。

容器は直射日光や火気を避けること。

保管場所は、耐火構造、床は不浸透性のものとし、地下への浸透、外部への流出を防止する。

指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。

施錠して貯蔵すること。

混触危険物質：

「10. 安定性及び反応性」を参照。

容器包装材料：

消防法で規定されている容器を使用する。

鋼、ステンレス鋼及びアルミニウムは容器として耐久性がある。

種々なプラスチックは容器として耐久性がある。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない

許容濃度(日本産業衛生学会、ACGIH)：設定されていない

設備対策：蒸気、ミストが発生する場合には、局所排気装置などの排気

安全データシート

No-tape

のための装置を設置することは望ましい。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具：

呼吸用保護具

－有機ガス用防毒マスク

手の保護具

－保護手袋（耐熱性ゴム手袋）

眼の保護具

－保護眼鏡（側板付き普通眼鏡またはゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具

－作業衣、安全靴

衛生対策： 作業中は、飲食、喫煙をしない。

取り扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 白色粘稠液
臭い	: 原料特有の臭い
臭いの閾値	: 知見なし
pH	: 測定できない
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: 250℃以上（COC）
蒸発速度	: 知見なし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	: データなし
蒸気圧	: 知見なし
蒸気密度（空気＝1）	: 空気より大
比重（相対密度）	: 約1.42
溶解度	: 水に不溶
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の条件下では、安定な物質である。
危険有害反応可能性	: イソシアネート類と混合すると反応・硬化し、多量に混合した場合、発熱しながら反応・硬化する。
避けるべき条件	: 反応するとガスを発生するので、容器を開放する。
混触危険物質	: イソシアネート類
危険有害な分解生成物	: 知見なし

11. 有害性情報

混合物について

急性毒性（経口）:	分類できない
急性毒性（経皮）:	分類できない
急性毒性（吸入：気体）:	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）:	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん及びミスト）:	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	分類できない

安全データシート

No-tape

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：	分類できない
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)：	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

1 2. 環境影響情報

混合物について

水生環境有害性(急性)：	分類できない
水生環境有害性(長期間)：	分類できない
オゾン層への有害性：	分類できない

1 3. 廃棄上の注意

- ・外部に委託する場合：産業廃棄物処理業者に、内容を明確にして、処理を委託する。
内部処理をする場合：該当法規に従って、廃棄物処理を行う。
(国、都道府県並びに地方の法規・条例に従う)
- ・汚染容器及び包装：空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国内規則

陸上規制情報	：消防法の規定に従う。
海上規制情報	：船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	：航空法の規定に従う。

国際規則

国連番号	：非該当
国際輸送品名	：
クラス	：非該当
容器等級	：
海洋汚染物質	：非該当

緊急時応急措置指針番号（容器イエローカード指針番号）：

特別の安全対策：「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載に従う。

容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、破損の無い様に、積み込み、荷崩れ防止を行う。

1 5. 主な適用法令

労働安全衛生法：	表示対象物質	－該当せず
	通知対象物質	－該当せず
消防法		－非危険物(指定可燃物)
毒物及び劇物取締法		－該当せず
船舶安全法		－該当せず

安全データシート

No-tape

悪臭防止法：－該当せず
 廃棄物の処理及び清掃に関する法律－産業廃棄物(廃油)
 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）
 －該当せず

16. その他

ホルムアルデヒド放散量区分：（日本接着剤工業会）
 室内空気質汚染対策のための自主管理規定 J A I A 0 0 5 6 2 7 F☆☆☆☆

文献：J I S Z 7 2 5 3－2 0 1 2
 J I S Z 7 2 5 2－2 0 1 4
 化学物質の危険、有害便覧（中央労働災害防止協会編）
 産業中毒便覧（医歯薬出版）
 G H S 分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構
 －N I T E）
 危険物船舶運送及び貯蔵規則

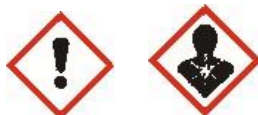
記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の手配を対象としたものであって、特別な手配をする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

危険・有害性の評価は必ずしも充分でないので、取扱いには充分注意して下さい。

安全データシート

No-tape

GHS表示：
ピクトグラム



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：

- ・吸入すると有害
- ・皮膚刺激
- ・眼刺激
- ・吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は、呼吸困難を起こすおそれ
- ・アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- ・呼吸器への刺激のおそれ

注意書き：

本品には、4，4'-ジフェニルメタンジイソシアネート（MDI）が1%以上含まれていますので、皮膚に付着したり、蒸気を吸入した場合、中毒を起こす恐れがありますから、取扱には下記の注意事項を守って下さい。

- | | |
|------|---|
| 安全対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない事。 ・熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざける事。ー禁煙。 ・防爆型の電気機器／局所排気装置を使用し、粉じん／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避ける事。 ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用する事。 ・使用設備の密閉化/回収装置の設置が望ましい。 ・容器は丁寧に扱い、内容物をこぼさない事。 ・取扱い後は、手をよく洗う事。口をすすぐ事。 ・環境への放出を避ける事。 |
| 応急措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・火災の場合：消火する為に、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を使用する事。 ・物的被害を防止する為に流出したものを吸収する事。漏出物を回収する事。 ・汚染された衣類を直ちに脱ぎ、再使用する場合には洗濯をする事。 ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗う事。皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当を受ける事。 ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う事。直ちに医師の診断／手当を受ける事。 ・吸入した場合：気分が悪い時は、医師の診断/手当を受ける事。飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡する事。 |
| 保管 | <ul style="list-style-type: none"> ・容器を密閉しておく事。日光から遮断する事。 ・換気の良い場所で保管する事。（5～35℃） ・湿気を遮断する事。水と接触させない事。 ・子供の手の届かないところに置く事。 |
| 廃棄 | <ul style="list-style-type: none"> ・容器は、中身をすべて使い切ってから廃棄する事。 ・内容物/容器を、許可を受けた専門業者に委託し廃棄する事。 |

* 接着用途以外には絶対に使用しない事。

安全データシート

No-tape

国／地域情報 消防法 第四類第四石油類 非水溶性 危険等級 III

3. 組成及び成分情報

物質の特定

単一製品・混合物の区別 : 混合物
 化学名又は一般名 : 合成樹脂系接着剤
 成分及び含有量 :

成分名	CAS No.	含有量%	P R T R法		労安法
			含有量%	分類	
ポリイソシアネート化合物	—	50－70	—	—	—
MDI	101-68-8	30－50	43	第1種	該当

※ MDI = メチレンビス(4,1-フェニレン) = ジイソシアネート

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所へ移動して寝かせる。頭痛等の異常がある場合、速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 : すぐに拭き取り、石鹼水及び水で洗い流す。炎症等が出た場合、速やかに医師の診断を受ける。

目に入った場合 : 流水にて最低15分間洗眼した後、異常のある場合は直ちに眼科医の診断を受ける。

飲み込んだ場合 : 多量の水で口の中をよく洗い、約250mlの水又は牛乳を与えて胃内で薄め、速やかに医師の治療(胃洗浄)を受ける。
患者に意識の無い場合は口から何も与えてはならない。

予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

: 喘息様発作、めまい、頭痛、吐き気、肝障害

応急措置をする者の保護 : 知見なし

医師に対する特別な注意事項 : 知見なし

5. 火災時の措置

消火方法 : 付近の着火源を断ち、保護具を着用して風上から消火する。

消火剤 : 二酸化炭素、粉末、泡、乾燥砂、大量の噴霧水

使ってはならない消火剤 : 棒状注水

特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
引火性の高い液体及び蒸気

特有の消火方法 : 付近の着火源を断つ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

安全データシート

No-tape

消火を行う者の保護	: 保護衣を着用するほか、状況によっては、不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。
特有の危険有害性	: 知見なし
特有の消火方法	: 火元の燃焼源を断ち、消火剤を用いて風上より消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

作業者は適切な保護具（8. 暴露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項：

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を避ける。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収、中和：

少量の場合は、紙や布で拭き取り「廃棄上の注意」に従って廃棄する。

大量の場合は開放した容器に出来る限り集め、残留物を土砂、ケイソウ土、おが屑など不活性吸収剤に吸着させる。（回収した容器は密封しないようにする）回収できなかった物は中和剤を散布して中和する。

中和剤の例：水／濃アンモニア水／液体洗剤の混合液

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

危険でなければ漏れを止める。

漏出物を取り扱う時、用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策：

全ての着火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

蒸気発生の多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。

関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

防爆の電気、換気、照明器具及び防爆用工具のみを使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。ー禁煙。

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

静電気対策のために、装置、機器などの接地を確実に行う。

安全データシート

No-tape

局所排気・全体換気：

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
液の漏洩や蒸気の発散を極力防止する。

安全取扱注意事項：

眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。
眠気又はめまい、呼吸器の刺激、器官の損傷のおそれがあるので、本製品に接触、吸入、飲み込みをしてはならない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

接触回避：

「10. 安定性及び反応性」を参照。
本製品（イソシアネート類）と反応する水等の物質との接触には充分注意する。

衛生対策 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策：

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。
容器を密閉して、換気の良いところで貯蔵すること。

保管条件：

冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。
水分と反応しますので、雨水や湿気、水分を避けること。
容器は直射日光や火気を避けること。
保管場所は、耐火構造、床は不浸透性のものとし、地下への浸透、外部への流出を防止する。
指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。
施錠して貯蔵すること。

混触危険物質：

「安定性及び反応性」を参照。

安全な容器包装材料：

消防法で規定されている容器を使用する。
鋼、ステンレス鋼及びアルミニウムは容器として耐久性がある。
種々なプラスチックを侵すので使用を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名	管理濃度	許容濃度			
		日本産業衛生学会		ACGIH	
		ppm	mg/m ³	TWA	STEL
MDI	－	－	0.05	0.005ppm	－

日本産業衛生学会 2018年（）：暫定値 ACGIH 2018年（）：変更提案値
皮：経皮吸収

設備対策：

蒸気、ミストが発生する場合には、局所排気装置などの排気のための装置を設置することは望ましい。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置

安全データシート

No-tape

する。

- 保護具 : 呼吸用保護具 ー有機ガス用防毒マスク
 手の保護具 ー保護手袋 (耐熱性ゴム手袋)
 眼の保護具 ー保護眼鏡 (側板付き普通眼鏡またはゴーグル型)
 皮膚及び身体の保護具 ー作業衣、安全靴
- 衛生対策 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 : 黒褐色液
 臭い : 土臭い
 臭いの閾値 : 知見なし
 pH : 測定できない
 融点・凝固点 : データなし
 沸点、初留点及び沸騰範囲 : 未測定
 引火点 : 229℃
 蒸発速度 : 知見なし
 燃焼又は爆発範囲の上限・下限 : データなし
 蒸気圧 : 知見なし
 蒸気密度 (空気 = 1) : 知見なし
 比重 (相対密度) : 約 1.24 (20℃)
 溶解度 : 水に不溶。トルエン、酢酸エチル、アセトン等の有機溶剤に可溶。
 n-オクタノール／水分配係数 : データなし
 発火点 : データなし
 分解温度 : データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性、化学的安定性 : 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
 イソシアネートは非常に活性が強く、水、アルコール、アミンなどの活性水素化合物と反応し発熱する。
 塩基性物質やある種の金属化合物の存在によって重合発熱する。
 水と反応して二酸化炭素を発生する。
 危険有害反応可能性 : 重合反応による、発熱、二酸化炭素の発生
 避けるべき条件 : 反応するとガスを発生するので、容器を開放する。
 混触危険物質 : 水分、塩基性物質
 危険有害な分解生成物 : 知見なし

11. 有害性情報

ウレタン原料工業会のデータより、

	MDI
急性毒性 (経口)	ラット LD50>5000mg/kg 区分外
急性毒性 (経皮)	ラット LD50>5000mg/kg 区分外

安全データシート

No-tape

急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類対象外
急性毒性（吸入：粉じん及びミスト）	ラット LC50(4時間)=0.49 mg/L(ミスト) EU R20 Harmful より、区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	動物、ヒト：僅かな刺激性～厳しい刺激性 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	動物、ヒト：僅かな刺激性 区分2 B
呼吸器感作性	動物、ヒト：感作性あり 区分1
皮膚感作性	動物、ヒト：感作性あり 区分1
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	IARC:グループ3 区分外
生殖毒性	区分外
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

1 2. 環境影響情報

ウレタン原料工業会のデータより、

	MD I
水生環境有害性(急性)	分類できない
水生環境有害性(長期間)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：産業廃棄物（廃油）として、許可を受けた専門業者に委託する。

汚染容器及び包装：空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国内規則

陸上規制情報：消防法の規定に従う。

海上規制情報：船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報：航空法の規定に従う。

国際規則

国連番号 : 非該当

国際輸送品名 : 非該当

クラス : 非該当

容器等級 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

緊急時応急措置指針番号（容器イエローカード指針番号） :

特別の安全対策：「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載に従う。

容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、破損の無い様に、積み込み、荷崩れ防止を行う。

1 5. 主な適用法令

労働安全衛生法：

安全データシート

No-tape

表示対象物質	－MD I
名称を通知すべき有害物	－MD I
消防法	－第四類第四石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ
毒物及び劇物取締法	－該当せず
船舶安全法	－該当せず
悪臭防止法：	－該当せず
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	－産業廃棄物(廃油)
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	
	－第1種指定化学物質（MD I：448）

16. その他

ホルムアルデヒド放散量区分：（日本接着剤工業会）

室内空気質汚染対策のための自主管理規定 J A I A 005627 F☆☆☆☆

文献：J I S Z 7 2 5 3－2 0 1 2

J I S Z 7 2 5 2－2 0 1 4

ウレタン原料工業会資料

GHS対応ガイドライン

（日本化学工業協会）

化学物質の危険、有害便覧

（中央労働災害防止協会編）

産業中毒便覧

（医歯薬出版）

GHS分類結果データベース

（独立行政法人製品評価技術基盤機構

－N I T E）

危険物船舶運送及び貯蔵規則

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特別な取り扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

危険・有害性の評価は必ずしも充分でないので、取扱いには充分注意して下さい。